

海はみんなの宝もの

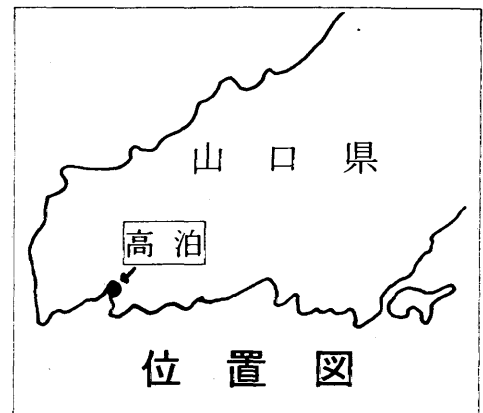
～環境保全は足元より、環境浄化は一人一人の心掛け～

高泊漁協婦人部
岡本万里子

1. 地域と漁業の概況

私たちが住んでいます山口県小野田市は、瀬戸内海の周防灘に面した気候温暖な都市で、古くは海底炭田とセメントの町として栄えていましたが、現在は工業と自然の調和のとれた花と緑にあふれた街づくりに取り組んでいます。また、最近の特産の「小野田のアサリ」がマスコミでも取り上げられ、全国からも注目を集めています。

私が所属する高泊漁協は、正組合員25名、准組合員255名で、主な漁業は海苔養殖業と採貝です。海苔養殖業においては県下唯一の人工採苗場をもっており、全国でも珍しい新品種「壇紫菜（たんしさい）」の生産販売も手掛けています。



2. 組織および運営

高泊漁協婦人部は、部員数は25名で、部長は現在高泊漁協の理事、また山口県漁協婦人部連合会の会長も務めています。主な活動は、部員を「環境」「魚食」「ふれあい」「漁協全利用」の4委員会に分け、それぞれ委員長を中心に責任をもって取り組んでいます。「環境」は浜清掃や植樹活動とリサイクルや手づくり石けんの普及等、「魚食」は魚の消費拡大を目的に料理教室や福祉の弁当づくり等、また「ふれあい」は他団体との連携交流、「漁協全利用」は漁協事業全利用運動の推進等です。

3. 実践活動課題選定の動機

海で生活している私たちにとって、深刻な問題となっているのが「海の汚染」です。漁協の前浜では、15年前頃から、それまで住み付いていたオオノ貝・チ貝・モ貝の姿が徐々に見られなくなり、以前は盛漁だったアサリ貝もほとんど育たなくなりました。昔遠足で行ったあの素晴らしい海岸も、ヘドロに覆われているという悲しい現状でした。

山口県内はもちろん全国でも「合成洗剤追放運動」「天然石けん使用運動」が叫ばれてから随分経ちますが、暮らしが海にかかっている者たちにとって、もうきれいごとではすまされない状況に来ていることは確かでした。地域全体の汚染と破壊がごく身近で起こっているながら、今ひとつ行動が結びつかず、グズグズしている間に、漁家の収入も、陸（おか）に職を求めなければ成らない程、苦境に追い込まれてしまっていたのです。

そこで思い切った発想の転換をして、僅かな部員が大きく動き、海や漁協への想いを厚くしていく、それには何をすればいいのか、部員同志で話し合った結果、平成4年、部員を「環境」「魚食」「ふれあい」「漁協全利用」ということで分担を決め、それぞれに責任を持って活動していくことに決定しました。

4. 実践活動状況および成果

私の所属する「環境」では、なんとかきれいな海を取り戻したい一念で、家庭排水について勉強した結果、「環境保全」は足元より、「環境浄化」は一人一人の心掛けをモットーに、合成洗剤の使用を止め、水に分解しやすい石けんに変えようと普及に努めることにしました。地域のみなさんに理解を求めため、まず「天然石けん置薬運動」と称して、婦人部員、漁協職員が漁協取扱いの石けんの大箱を買い、切れ目無く家に置くことから始めました。これと並行して廃油を使っての手づくり石けんにも挑戦しました。石けんを作るにあたっては、小野田市の教育委員会にお願いし、学校給食で使用した廃油をいただきました。また当初は一斗缶で混ぜていたのですが、液が飛び散り、有毒ガスが発生するなど危険を伴う為、石けんを作る機械は無いものかと部長が県外まで視察に行ってみましたが、高価な為買うことをあきらめ、海苔機械の不用品から「リサイクルミニプラント」.を作ることになりました。25万円ほど費用がかかりましたが、材料を入れるだけで後は出来上がりまで少人数で、仕事にも支障がなくなりました。

まさに「草の根運動」と言いましょうか、次第に「石けん運動」の輪は広がり、地域のみなさんの意識啓発もでき、今では各地の小学校や中学校から、環境についての講演や、廃油石けんづくりの実習依頼がたくさんきています。またこれらをきっかけに魚食普及でも交流が増え、一緒に魚料理を作って食事をするなど、県内はもちろん県外からも福岡県漁婦連の方々が視察研修に来られ、手づくり石けんの普及を通して様々な親交を深めています。

特に、次代を担う子供たちへは、私たちが信念を持って環境問題に取り組んでいく姿勢を見せることこそが、「環境教育」かと思えます。近所の保育園の卒園式にも石けんを贈ったところ、大変喜ばれさっそく園よりお礼状が届きました。このように喜んで下さることが、私たちにとっても何よりの励みとなるのです。またこうした活動を通して、他のいろいろな面での相乗効果を期待しつつ、息の長い活動を今後も続けていこうと思えます。

おかげさまで前浜にもアサリが少しずつ育つようになり、私たちも徐々にその成果が見えてきた事に胸をなでおろしています。特に本年度は、山口県で開催されるビッグイベント「山口きらら博」でも、きれいな海をテーマに「魚の目から見た環境問題」の一環に手づくり石けんを紹介し訴えていくことにしており、婦人部員一同に期待がかかっています。

5. 波及効果

私たち婦人部は、環境面での漁業の活性化にとどまらず、生産性の向上と漁協の事業発展の為に何か手助けはできないものかという模索し、長年の懸案であった「ふれあい市場」を、地域の国道沿いに開くことを決めました。組合長にも私たちの熱意が通

じたのか漁協の協力も得ることができ、平成11年7月、「西高泊ふれあい市場」と名づけ、婦人部はもとより地域も巻き込んでようやく開店にこぎつけました。

店番は当番制にし、弁当持参で朝7時から午後5時半頃まで。しかも年中無休でみんな毎日頑張っています。中でも婦人部長は魚の行商の許可や仲買の資格を取り、朝早くから魚市場へ出かけ、自らが競り落として魚を仕入れています。品揃えは魚以外に自分たちが兼業で作った野菜、加工品、漁連取扱い商品など、品数が豊富で消費者の方々にもとても喜ばれています。当然のことながら、廃油から作った手づくり石けん（プリン・固形・粉）の販売もおこなっておりPR活動も欠かしません。売上金は少しでも漁協の為になればと、全員漁協へ貯金し積み立てています。

僅かな組合員、婦人部員が一丸となり、アサリの中間育成、海苔の種付け手伝い、また婦人部の一部は福祉の弁当配り、他はふれあい市場で販売活動。開店して一年半、売上は漁協へ部員それぞれが口座をつくり貯金。その貯金が増えていくのが楽しくって、またせっせと市場へ物を運び込む。その繰り返しの中、みんなの笑顔はなんとも言えない最高の姿です。また今では魚をフライに、白菜はキムチにしたり・・・等々、いろいろ工夫を凝らし、お客様にも好評を得ています。

私たちの願いは、この市場がふれあいと集いの場として、また情報交換の場としても、話に花が咲き、笑い声が絶えない地域と婦人部の「癒しの場」となればと思っています。

6. 今後の課題や計画

幸い高泊漁協は、十数年前より婦人部員を理事に登用し、男女を問わず事業に関わってきました。私たちのモットーは、「肩肘を張ることなく女性の特性を無理なく活かし、自分たちが出来ることは何か？を常に考え実行する」です。漁協事業への参画は、まさに男女共同参画社会の原点だと思っています。

何年先になるかはわかりませんが、この「ふれあい市場」をいずれは「道の駅」として拡大させ、情報発信の場としてホームページを開設し、「海を汚染から守る運動」を世界に届けることが夢です。一人一人が手をつなぎ、スタートした21世紀を私たち漁業に携わるものにとって、明るい希望のもてる時代にしていかななくてはなりません。

「環境保全」は足元より、「環境浄化」は一人一人の心掛け。

最後に高泊漁協婦人部の今後の目標、三つを紹介します。

1. 「山口きらら博」のテーマである“いのち燦めく未来へ”の中で「自然といのち」を育むために、石けんづくり活動などの、きれいな海を守る私たちの環境保全への取り組みを全国に発信します。
2. 「西高泊ふれあい市場」の販売物の紹介や活動内容を盛り込んでホームページを開設し、地域産物の活用や地域の人たちとのふれあい情報を広く消費者に提供します。
3. 私たちの夢を、山口県小野田市高泊より全世界に発信します。

高泊漁協婦人部組織図

部 長

環 境

ふれあい

魚 食

漁協全利用

石けん普及活動

- ・手づくり廃油石けんの普及
- ## 環境保全活動
- ・リサイクル活動
(ごみ減量分別、廃品回収)
 - ・海浜清掃
(海と渚をきれいに)
 - ・植樹活動
(森、川、海をつないで)

教育学習活動

- ・他団体との交流
- ・生活教室などの実施

男女共同参画

- ・組合役員、運営委員への参加
- ・婦人部員の増加、正組合員化

ボランティア

福祉活動

- ・チャリティーバザー、募金運動
- ・ホームヘルパー

地域ふれあい活動

- ・地域のまつり、イベントへの参加

魚食普及活動

- ・お魚料理教室
- ・朝市、イベントで新鮮な魚を販売
- ・地域敬老会への給食サービス

借 用

- ・一日皆貯金、婦人部貯金
- ・年金推進

共 済

- ・チョコー、火災等の加入

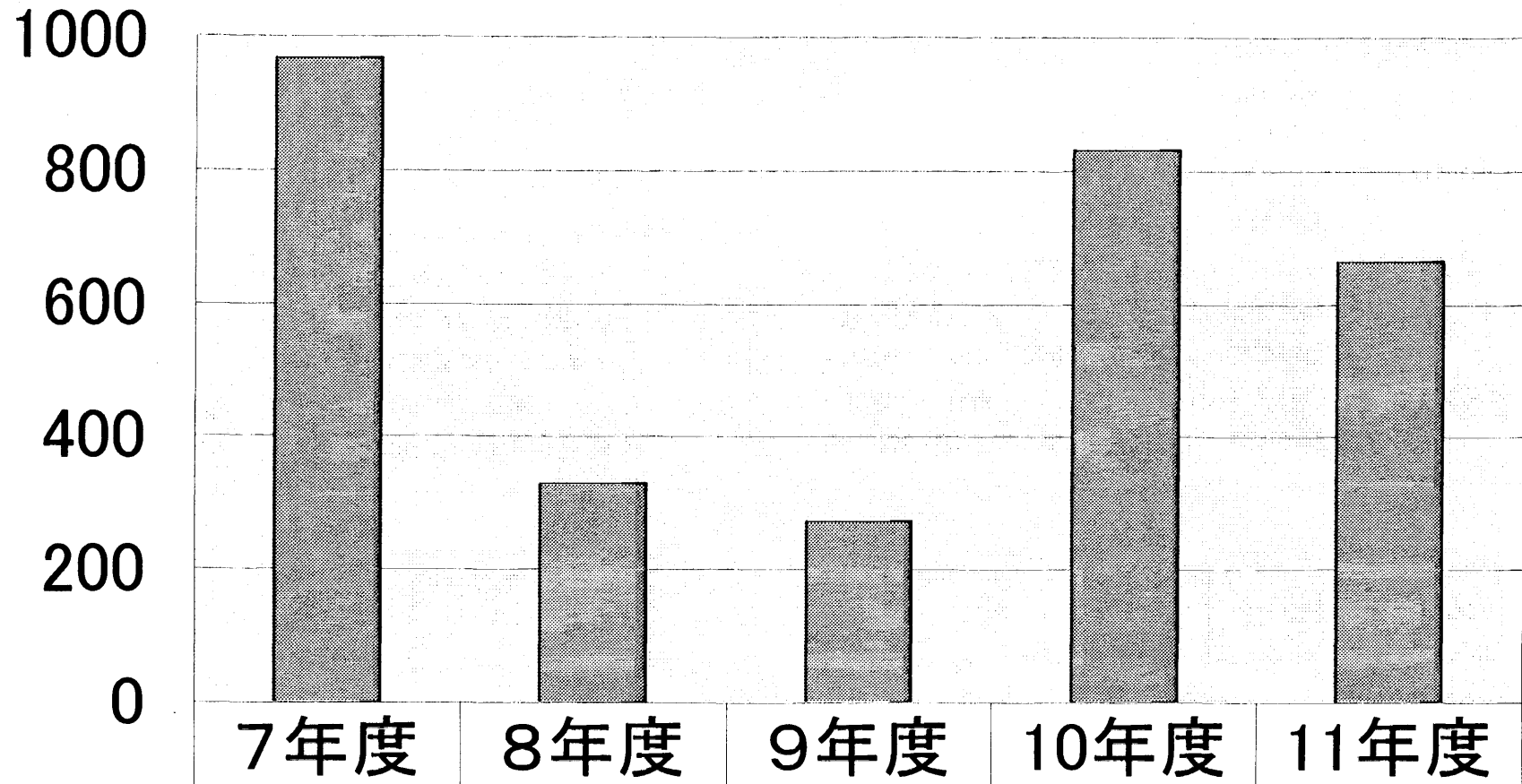
購 買

- ・生活用品などの共同購入
- ・石けんの一括購入

指 導

- ・漁場管理、繁殖保護への提言

高泊漁協婦人部 石けん普及率 (%)



■ 普及率(%)

7年度

8年度

9年度

10年度

11年度

966.7

328.8

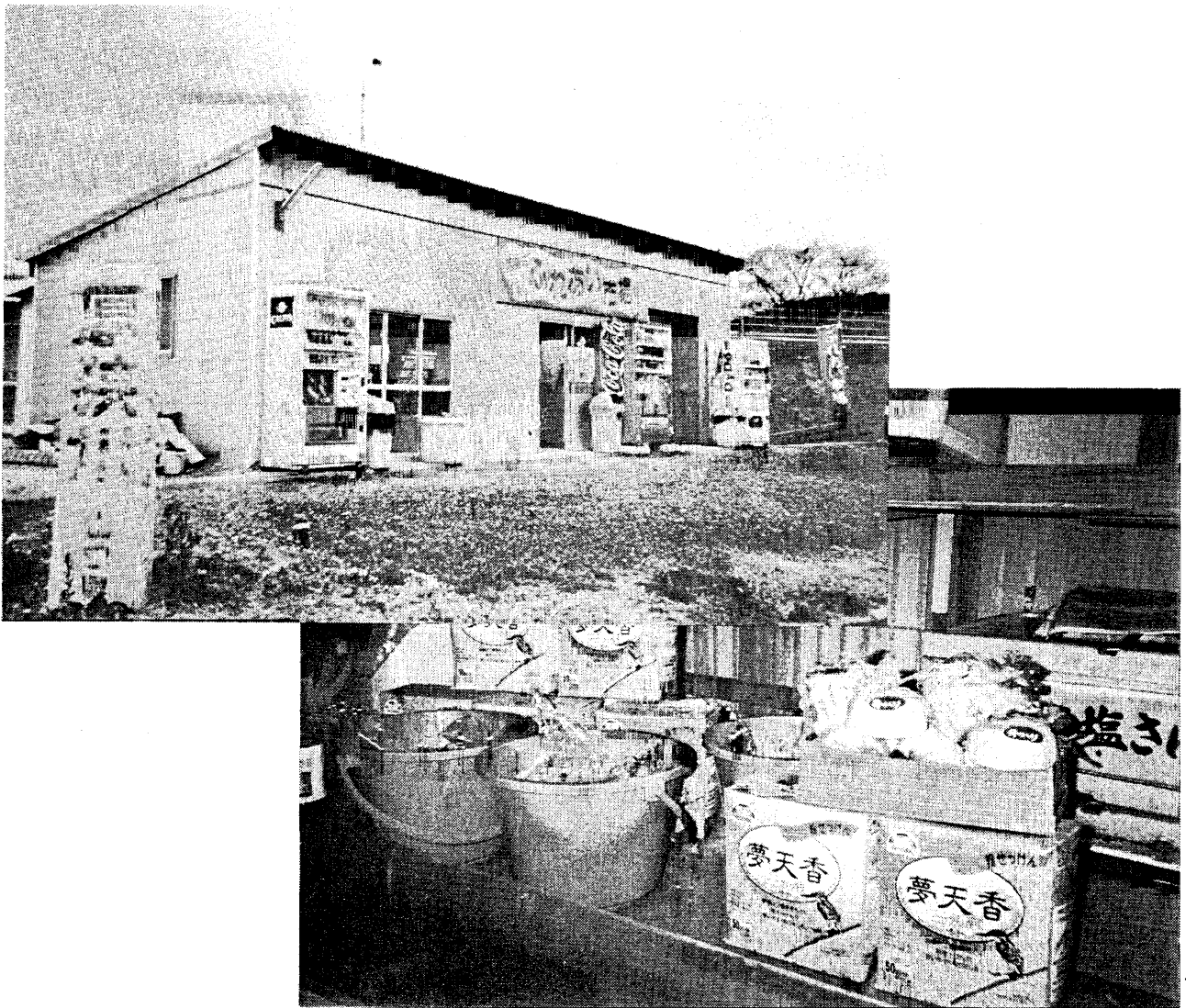
271.1

831.5

664.8



中学校で手づくり石けん講習



『西高泊ふれあい市場』石けん販売



『韓日女性フォーラム』で環境保全について発表